みらいゼミ「食を通じた難民支援~M4R@Rits~」

難民支援力ェア

代表:酒井すず(国際関係学部3回) 発表者:岸本杏菜(国際関係学部3回) メンバー20名

目的:

①学生が行うことで発生する意味 ②今後の視野を広げる ③学生の自主的な興味をもたらす宣伝効果

背景:難民を取り巻く様々な問題点

①日本における難民認定の厳しさ ②認定後の「難民」としての苦しい生活 ③「難民」から元に戻れるのか

具体的施策:私たち学生に何ができるだろうか?

①M4Rによる難民支援団体への寄付・難民問題の広報活動 ②弁護士による『入管法改正』をテーマとした講演会

③映画『マイスモールランド』上映会 ④難民問題ワークショップ(講師による講演+学生主体のディスカッション)

M4R6/26-30

衣笠(存心館食堂)・OIC(OICカフェテリア)・BKC(ユニオンフードコート)にてフェア限定メニュー提供!



"Meal For Refugees" 通称M4Rは、難民の人々の家庭料理を学食で提供し、その売り上げの一部を難民支援団体に寄付する取り組みです。学食で対象のメニューを購入することで、無理なく難民支援に取り組むことができます。 先週の人気No.1メニューだったそうです!





(寄付額10円込)





講演会6/26 「難民問題のプロに聞く!~入管法改正の何がダメなの?~」 16:20-17:50 敬学館108号室(KIC)

これまで数々の難民裁判を担当してきたNPO法人 RAFIQ 難民との共生ネットワーク 副代表理事の弘川弁護士をお招きし、日本の難民認定制度の問題点や6月9日に参議院本会議にて可決・成立した入管法改正によりどのような利益や不利益が私たちや難民に降りかかるのか、私たちの立場で何ができるのかをお話ししていただきました。

参加人数:対面24名、オンライン22名(計46名)





6/30 13:30-15:30 OIC:A棟1FRoom7

映画『マイスモールランド』で「難民問題」を考える

「クルド人の家族とともに生まれた地を離れ、幼い頃から日本で育った17歳の少女サーリャ。少し前までは同世代の日本人と変わらない、ごく普通の高校生活を送っていた。だが、ある日難民申請が不認定となり、家族の日常が一変する。日本に居たい、と彼女が望むことは"罪"なのだろうかー?」(映画「マイスモールランド」パンフレットより抜粋)

クルド人家族が「難民」として日本で生活していく困難を、リアリスティックかつ繊細に描いた本作品 を鑑賞していただいた後、アムネスティ・インターナショナル日本関西連絡会の野尻代表から映画の内 容に関連する日本の難民認定制度や難民受け入れの問題について解説していただきました。

来場者数:27日13名、28日9名、29日15名、30日(OIC)2名(計39名)



ワークショップ^{6/30}「難民問題解決のために学生の私たちにできること」 16:30-18:30 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

世界最大の国際人権NGOであるアムネスティ・インターナショナル日本関西連絡会から野尻代表、牛久入管収容問題を考える会ともだち基金事務局から長沼寛子講師をお招きしました。長沼講師から難民自身の生活実態や入管施設及び制度の実状などについてご講演頂いた後、学生で「移民と難民の違いは何か」「『日本の文化を守るために、移民を制限すべきである。しかし難民の保護を制限してはいけない』という考え方についてどう思うか」をテーマに議論していけない』という考え方についてどう思うか」をテーマに議論していただきました。そして社会運動の活動類型についてもお話しいただき、「学生の視点から『私たちにできることは何か』」を考えることができました。





参加人数:14名

成果

- ①講演会・映画上映会・ワークショップに参加いただいた合計99名の学生やみらいゼミメンバー及び一般参加者に 難民問題について学ぶ機会を提供できた。
- ②広報活動やM4Rを通して多くの学生が難民問題に触れることができた。

反省点

①広報活動のスタートが遅れてしまった。②難民問題に関する勉強会よりもイベント企画に比重がかかってしまった。